

平成25年1月31日

日清製粉グループ 第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第3四半期累計期間は売上高3,421億21百万円、経常利益198億6百万円。

[平成25年3月期 第3四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）は、昨年4月より長期的な成長を実現するため、トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略とする中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」をスタートし、各事業において積極的な取組みを進めております。

平成25年3月期第3四半期連結累計期間につきましては、東日本大震災の復興需要並びに政策効果等により緩やかな景気回復の兆しがみられたものの、海外景気の減速を背景とした先行き不透明感や長引くデフレ環境により個人消費が低迷するなど依然として厳しい環境となりました。このような中、各事業においてトップライン（売上高）の拡大に向け、積極的な販売促進施策に取り組みました。また、昨年3月に買収した米国のMiller Milling Company, LLCおよび10月に設立した新会社日清製粉プレミックス㈱は順調に推移しております。12月には、ニュージーランド最大の製粉事業の取得を決定し、新会社Champion Flour Milling Ltd.を設立いたしました。更に、総合中食メーカーのトオカツフーズ㈱に出資するなど成長拡大に取り組みました。

一方、将来のコスト競争力強化策として、製粉工場の集約に取り組んでおり、昨年5月に九州において福岡新工場の建設に着工し、12月に中部において知多工場に新ラインを増設することを決定いたしました。なお、輸入小麦の政府売渡価格が、昨年4月に5銘柄平均で15%引き下げられ、10月に同3%引き上げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

この結果、第3四半期連結累計期間の業績は、売上高はMiller Milling Company, LLCの連結効果や中食・惣菜、冷凍食品の伸長、医薬品原薬の新規出荷等により、3,421億21百万円

（前年同期比103.8%）となりました。利益面では、食品事業において拡販費用を増加したことなどから、営業利益は171億43百万円（前年同期比94.8%）、経常利益は198億6百万円（前年同期比95.4%）、四半期純利益は120億2百万円（前年同期比110.1%）となりました。

[平成25年3月期通期連結業績予想]

我が国経済は、政権交代によるデフレ脱却への期待はあるものの、依然として先行きは不透明であり、また、高値基調にある国際穀物相場など、当社グループを取り巻く状況は引き続き厳しいことが想定されます。このような状況におきましても、当社は安全・安心な製品を安定的に供給するとともに、トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大に向けて中期経営計画で策定した諸施策に積極的に取り組んでまいります。

以上の結果、当年度の業績見通しにつきましては、当初の予想を据え置き、売上高は4,591億円（前期比103.9%）、営業利益は235億円（前期比101.7%）、経常利益は263億円（前期比100.6%）、当期純利益は146億円（前期比109.6%）としております。

以上